

吉澤 剛禎 (YOSHIZAWA Masayoshi)

研究員

2000年 群馬県藤岡市 生まれ  
2023年 東京農業大学 地域環境科学部  
生産環境工学科 卒業  
2023年 農研機構 農業情報研究センター  
AI研究推進室 多変量解析ユニット  
2023年 農林水産省 農村振興局 防災課 広域防災班  
2024年 農研機構 農村工学研究部門  
農地基盤情報研究領域 地域防災グループ



研究者の横顔

〈農業農村工学を選んだ理由〉

大学選びの際、土木工学と農業農村工学のどちらを学べる大学に進学するかは最後まで悩みました。悩んだ末、技術の先生や生物の先生が親しみやすかったので、土木を学びながら技術や理科の教職課程も履修可能な農業農村工学を学べる大学を選びました。大学入学後、夜遅くまで授業のある教職の履修はあきらめました（通学に毎日6時間近く使っていた為）が、土木を学びながら教員免許も取りたいという欲がなかったら農業農村工学を選ぶことはなかったはずで、農業に関わる土木分野、機械分野、更には情報分野と広く農業に関わる工学分野を学べたことが様々な分野に興味を持つきっかけになったので良かったと感じています。

〈研究について〉

1月1日に発生した令和6年能登半島地震、9月20日からの大雨で被災された能登半島の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。全国各地で地震、大雨等の被害は発生していますが、農林水産省での行政事務研修中に地震が発生し被害情報が分かる環境にいたこと、そして、現在研究対象としている地すべりも能登半島にあることから特に気がかかります。

現地調査のため8月に能登半島に出張していましたが、その時見た被災風景が大雨によってさらに悪化していることに心が痛みました。卒業式でも涙目にならないのですが、このときばかりは涙目になりました。被災した人のことを思いながら研究を進めていこうと思いますが、被災する人が出ないように被災後の対策に関する研究よりも防災に関する研究に重点を置いて研究を進めていきたいなと感じています。

〈趣味〉

実家に戻って祖父母の農業を手伝う（写真参照）のが趣味かつ休日の過ごし方です。大学入学前までは、農業の手伝いも忙しい時期にするという感じでしたが、大学で水や土に関する勉強をする中で教科書の内容や講義の内容が正しいのかさらに深堀したくなってしまい気づいたときには抜け出せなくなり今に至ります。大学院に進学しようか就職活動をしようか迷っていた時も孤独で無になれる麦踏みや毎週のようにしながら考えていました。今後も研究などで迷ってじっくり考えたいときは麦踏みやしようと思います。また、スマート農業の技術を組み合わせて、つくばにいなながら実家の農地を完全遠隔管理できる技術ができた際にはユーザーとして使ってみたいです。